

我が国の研究活動の実態に関する調査

Survey on R&D activity in Japan

キーワード

研究成果、研究水準、研究協力、科学技術に関する理解

1. 調査の目的

本調査は、科学技術庁の科学技術白書作成に資するため、我が国の研究活動の実態に関するデータ収集を目的として実施したアンケート調査である。調査対象は自然科学系の研究者である。当研究所はこのアンケート調査実施プロセスを担当した。調査の結果は、科学技術庁の下記のウェブサイトに掲載されている。

<http://www.sta.go.jp/shokai/publications/sentan/sentan10/pdf.html>

本調査はここ数年継続して実施しているが、平成10年度においては、本格化する研究評価に注目し、研究評価に対する研究者の意識に関して調査を実施した。

2. 調査研究成果概要

(1) 調査内容

本調査研究は大きく下記の5つの内容について調査している。

我が国の研究者の産出論文と国際化

大学・国立試験研究機関における研究

国際的な研究水準格差の要因

研究協力と研究者の流動化

国民に対する科学技術に関する理解の増進

(2) 調査の概要

論文の質重視の方向性

我が国の研究者に関しては、年間執筆論文数は平均2本未満であると回答者の過半数が答えている。また、論文を執筆・投稿する際に重視していることとして、6割強の研究者が、「数は少なくともインパクト・ファクターの高い論文誌に載ること」と回答している。このことから、研究者の多くは質を重視していることが認識できる。

国際研究社会との関わりを深めていくことが必要

「英語で論文を書くことや、外国人研究者とのコミュニケーションに対する意識」

に関する一連の質問から、約8割の研究者が日常的には海外の研究者とコミュニケーションをとっていないことがうかがえる。また、その主たるコミュニケーション手段も、「頻度の少ない学会等への参加による直接会話」と回答した研究者の割合が約2割を超えるなど、人的ネットワークのレベルで、研究者の国際コミュニティに十分浸透していないと見ることができる。我が国の研究者には、研究集会の機会と言うまでもなく、インターネット等のより利便性の高い通信手段を活用して、日頃から研究者の国際コミュニティに溶け込み、知的刺激を与え合う努力を積み重ねることが求められる。

大学・国研等の研究者における研究成果の知的財産化の必要

研究成果の知的財産化に対する意識については、大学・国研等の研究者の意識が低く、意識している研究者の割合は3割強にとどまった。しかし、ベンチャービジネスに対する関心は、国研等の研究者では低いものの、全体としては高く、自身の研究成果を社会に還元しようという意識を持っていることが示された。また、特許出願の手間や出願・維持費用が負担となっているために、研究者の特許出願意欲は向上しない状況も示された。よって、研究成果の知的財産化が社会貢献につながるという認識を醸成し、また、特許出願に対する意欲を阻害しないような支援体制の整備が必要である。

研究者の流動化を促進する潜在性

他の研究機関に移って研究をしてみたいと思うかなどに関する一連の質問から、過半数の研究者が何らかの形で「他の研究機関に移ってみたい」と考えていることが示された。これを年齢別に見ると、20歳代は研究機関の移動に際しポストの種類(パーマネントかテンポラリーか)にはこだわらない研究者が多く、30歳代は、何らかの形で研究機関を移動したいと考えている研究者の割合が最も高いと同時に、パーマネントポストを希望する研究者の割合が高いのが特徴である。

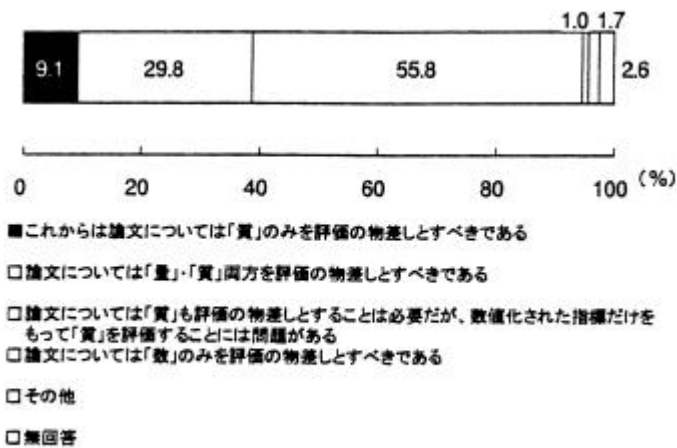
多くの研究者は、自分の研究は国民が理解できると考えており、説明の機会を持ちたいとも考えている一方で、自分の専門外のことについては責任を持っていないとし、躊躇する研究者も少なからず存在している。

8割以上の研究者が、自分自身の研究はわかりやすく説明すれば一般国民が理解できると考えており、7割以上の研究者が、自身の研究を一般国民が理解できるように説明したいと回答している。しかし一方、自身の研究内容ではないことに関して一般国民が関心を持っている科学技術のことについて説明をしてみたいかどうかについ

では、専門分野にこだわらず、積極的に話す機会を持っていきたいと回答した研究者が43.5%いた。また、専門外の分野については責任を持っていないので説明したいとは思わないと回答した研究者が46.4%存在した。

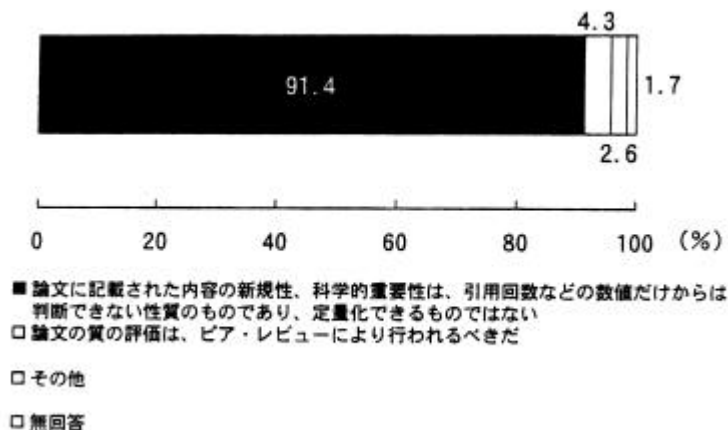
以下に、上記を示す調査結果のグラフをあげる。

図1 論文の質を評価の物差しとすべきか



注) 「研究評価において、論文の質を評価の物差しの一つとすることについて、どのように考えますか。」という問に対する回答。(調査結果において図 第 1-3-1 に対応)

図2 なぜ数値化された指標だけでは問題があるのか



注) 前問で数値化された指標だけでは問題があると回答した方に「なぜそのように考えるのですか。」と尋ねた問に対する回答。(調査結果において図 第 1-3-2 に対応)